

邦舞・邦楽の魅力をつつぷりと ——華麗に魅せる男女の愛憎

2017年9月28日／国立文楽劇場

主催：公益財団法人 関西・大阪 21 世紀協会

上方文化芸能運営委員会

協力：松竹株式会社、株式会社アロープロモーション

関西・大阪 21 世紀協会は、歌舞伎、能、文楽をはじめ狂言、落語など奥深い上方文化の伝承、振興と新たな創造的活動を支援しています。今回の「花の彩」は、日本の伝統芸能である邦舞・邦楽を楽しんでいた企画で、狂言、清元、歌舞伎舞踊の3部構成で上演されました。

日本の文化に親しむ

花の彩

いろどり

第一部 壬生狂言『紅葉狩』

(重要無形民俗文化財)

京都壬生寺を興隆した円覚上人が創始した「壬生大念佛狂言」のひとつ。仮面をつけた演者が金鼓、太鼓、笛に合わせて、せりふを用いず演じる「無言劇」です。名將の誉れ高い平維茂(たいらのこれもち)が狩りの最中、美女に魅せられて酒宴をします。そこで毒酒をもらえるが、地蔵尊のお告げで鬼女であることを知らざれ、授けられた刀でこの鬼女を退治する話で、優雅な宴と激しい戦い、酒宴での美女と本性を現した鬼女の対比が見どころです。



鬼女を退治する維茂



維茂に毒酒をすすめる女

壬生狂言

清元節



第二部

清元節

『かさね(色模様間苳豆)』
(重要無形文化財)

浪人の与右衛門が、身ごもった奥女中のかさねと心中する覚悟で川へ。そこへ流れてきた髑髏(どくろ)にささった鎌を引き抜くと、かさねの面相は恐ろしく変貌します。かつて与右衛門は、かさねの母と密通し、あげくにかさねの父、助を鎌で殺しました。かさねがその娘だと知った与右衛門は、かさねをも斬り殺すという物語を、浄瑠璃 清元清寿太夫さんと三味線 清元梅吉さんの二人の人間国宝が競演しました。



浄瑠璃 清元清寿太夫さん(左)と三味線 清元梅吉さん(右)

第三部

歌舞伎舞踊

『義経千本桜・吉野山』

源義経の愛妾静御前と義経の忠臣佐藤忠信が主役の歌舞伎舞踊『義経千本桜・吉野山』。都を落ち延び、吉野山にいる義経を訪ねる静と忠信、その道中、忠信を見失った静が「初音の鼓」を打つと、不思議なことに忠信が姿を現します。忠信は鼓の皮に用いられた狐の子で、忠信の姿を借りて、静を守っていたのです。忠信は、過ぎし日の壇ノ浦合戦に思いをはせ、その後、鎌倉方の追っ手を蹴散らし、静とともに道を急ぎます。片岡愛之助さん(忠信)の躍動感のある演技と、中村吉太郎さん(静御前)の華麗な舞が会場を魅了しました。



佐藤忠信役の片岡愛之助さん



追手の逸見藤太役の市川新蔵さん(中央)



静御前役の中村吉太郎さん

(撮影: ©越田悟全)